

■ 編集委員会から

編集委員長 石垣 (20期)

～車内風景～

最近、通勤電車でザック（カバン？）を背負った人をよく見かけるようになりました。ザックと言えば山ではお馴染みですが、荷物の持ち運びが楽ですし、何よりも両手が使えるのがメリットですね。その便利さからか、若者から壮年まで多くの人がスーツ・コートの上にザックやビジネス用のカバンを背負っています。

昨日も満員電車に乗って何気なしにいつもの車内風景を見ていると、突然嫌な気持ちになりました。それは電車が混んでいるにもかかわらず、ザックを背負ったまま立っている人や、背負ったまま座席に座っている人が沢山いたからです。その人たちは皆スマホや携帯電話に夢中です。両手が使えるメリットを十分に活用していますが、こんな風に思いました。「自分の世界に入り込んでいて、他の人への配慮ができない悲しい人なんだな」と。

電車の中ではザックを背中から降ろすのが当然です。他の人の迷惑になりますからね。「最近の人はマナーが・・・」などと考えながら社内のザックを見ていると、大学時代、土曜日の昼頃、相鉄線・小田急線を乗り継いで丹沢に出かけたことを思い出しました。当時は学校も会社も土曜日は半ドン（これは死語？）で、帰宅時間とも重なり、電車がとても混んでいたことを覚えています。さすがに背負ってはいませんでした。大きなキスリングを持って何人も電車に乗り込む訳ですから、他の人から見たら結構迷惑だったのでしょうか。それから40年近く経って、少しは大人らしく他の人に配慮ができる人間になったかなと自問自答（正直に言うと「反省」）した次第です。

もう一言)

P17に書かれた鴨志田君の山行記録を見て、闘病中にこれ程まで山に登った彼の執念、凄さを感じました。そして、生きている喜びと、時を無駄にしないことを改めて教えてもらいました。ご冥福をお祈り申し上げます。